

# 事業者における自己評価結果（公表）

公表：2025年 3月24日

事業所名 みんなの光楽園あおば(放課後等デイサービス)

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に訓練などが必要な場合、3階のスペースを使用している。</li> <li>譲り合っている</li> <li>学習スペース、静かに過ごしたい子どものスペース、アクティブな子どもが活動するスペースを分け、それぞれが過ごしやすい環境作りに配慮している。</li> </ul>	
	2	職員の配置数は適正である	5	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が病欠でも対応できるように、学生バイトをお願いしています。</li> <li>全てうまくいくのは難しいがみんなの意識一つでどうにでもなる。その為の話し合いを入れている。</li> <li>送迎などで全職員が揃うまでに時間差があるため、活動内容や場所、子どもにつく職員の配置を工夫し、子どもたちが安全に過ごせるようにしている。</li> </ul>	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	2	4	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のところ、バリアフリー化の必要性がない。</li> <li>歩行や体幹に不安定さがある子どもには、運動機能の向上のため、敷いて階段などの段差を利用している。</li> </ul>	現在の利用者の状況では、バリアフリー化する必要はないと判断しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に数回の会議を開催している。</li> <li>バイトまで伝わっていないこともある。</li> <li>今後、全職員が必要を感じて意識を合わせ、主体的に自主的に取り組んでいきたい。</li> </ul>	職員増で業務配分等個人負担を減らす一方で、会議・打ち合わせふくめ職員間のコミュニケーションを図る機会を増やし、進め方の工夫を重ねていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者向けのアンケート調査はおこなっていないが、日々の送迎時やチャット、面談などで意向を把握するように努めている。保護者の意向は迅速に職員間で共有し、話し合いの時間をもっている。</li> </ul>	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1	0		ホームページの見直しを図ります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3	0		現在外部機関による第3者評価を受けていません。今の施設の活動が安定的に実施出来るようになってから始めたいと思います。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	0		
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	0	7	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと細やかに動いていると思う</li> <li>見方に偏りがないように、職員全員が関わるようにしている。</li> </ul>	適宜LCスケールやWISC等を活用しながら子どもの状況に合わせたアセスメントを実施していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームで立案する時間がとれず、特定の職員で立案することが多いが、個別対応が必要な子どもや、状態に応じて配慮が必要な子ども、個々に合わせた活動内容のポイントを共有し、実施できるように意識している。</li> </ul>	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>その場に応じて</li> <li>職員全員が同じ意識レベルでないと実行できないことなので、声をかけあうようにしている。</li> </ul>	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども一人ひとりの課題の整理をおこない、必要な支援を統一できるように話し合っている。</li> </ul>	長期休暇や土曜日の活動等の計画を早めに設定・準備するようにします。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別に関わる必要がある場合、心理療法、言語療法、作業療法を行っている。</li> <li>職員の配置、場所の工夫</li> </ul>	
	15	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝から来ている子どもの送りや放課後の子どもの迎えの時間によって職員全員が揃わないため、グループチャットを活用している。</li> </ul>	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	7	0	・グループチャットを活用している。定期的に会議をおこなっている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2	0		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	2	5	0		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	0		
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	8	0	0	・学校に迎えに行った際に担任とコミュニケーションを大切にしている。また、トラブル発生時や子どもに変化が見られた時は特に、スピーディーに対応するようにしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	5	1	・今ところ医療的ケアが必要な子どもがいない。	今ところ該当する子どもを受け入れておらず、今後も受け入れる予定はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3	0		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	6	0	・今までに放デイから障害福祉サービスへと移行する子どもがなかった。今後移行する際は情報提供や協力をおこないながら、子どもが幸せな人生を歩めるように連携をとっていきたい。	・今後該当する子どもが出て来たら丁寧に対応します。
関係機関や保護者との連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	3	0	・長期休暇に、同法人の学童の子どもと行事などで関わる機会を持っている。また、近所の公園に遊びに来ている子どもとの関わりや遊びも楽しめるように温かい雰囲気の中、見守り、必要に応じて介入して橋渡しをおこなうなどしている。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	5	2		町内会には加入しているので、今後地域行事等に少しずつ参加して関係づくりを図っていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	0		

	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	7	0		2025年度は、保護者同士・保護者と職員間の交流も兼ねたペアレントトレーニングの機会をもつよう計画します。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	2	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	0		
保護者への説明責任等	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	7	0		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	2	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行動予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	3	1		ホームページの更新・発信等を通じて、またChatworkの情報伝達ツール等を利用して情報発信をしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	0		
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	0	・子どもの発する言葉が本音ではないこともある。言葉の奥にある心を理解しようと努めている。また、そのような子どもの状態を職員間で共有し、誰もが子どもを丸ごと受け止められるように配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	4	0		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	0	6	1		整備を行い、職員に周知徹底してまいります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	2	5	0		避難訓練を計画的に、確実に実施します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	1	7	0	・身体拘束をおこなう場面がないが、今後必要があれば適切な対応をしたい。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	8	0	・対象となる子どもがいないが、今後、必要があれば適切に対応したい。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3	2	・口頭やグループチャットで共有しているが、今後、記録をとるようにしていきたい。	今後ヒヤリハット事例集を作成し、共有するようにします。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。